

## 避難先から村の魅力を発信 「までえな食づくり」出版



村役場で再会した(左から)著者の旗野さん、取材に協力した菅野榮子さん・菅野芳子さん(共に佐須)

村の食文化・生活文化の魅力を、郷土料理のレシピと合わせて紹介する書籍「までえな食づくり」が出版されました。著者は伊達市在住の栄養士・旗野梨恵子さん。伊達市に避難した村民と出会い、交流を深める中で、飯館村の食文化に魅せられていったそうです。当時、福島大学大学院で学んでいた旗野さんは、研究の一環で村の女性達を取材。それらを再構成してまとめた本書は、村外の方の視点から、暮らしに根ざした村の食文化を、魅力たっぷりに伝えています。

## 食生活の向上に連携を 相双地区食生活改善推進協議会



自治体職員や団体の代表が出席した総会。協議会では村民会員が幹部役員としても活躍しています

5月24日、相双地区食生活改善推進協議会(菅野一代会長／比曾)の総会と研修会が、交流センター「ふれ愛館」で行われました。相双地域の自治体や団体が連携するこの協議会では、村も「飯館村食を考える会」を中心に協働し、食生活改善運動を推進しています。研修会の講師に招かれた菅野村長は、震災や避難の影響を受けながら地道な取り組みを続けてきた協議会に対し、「見識の高い活動に敬意と感謝を申し上げます」と謝意を伝え、講演を行いました。

## 「おかえりなさい」補助金 300件記念セレモニー



セレモニーは村役場の窓口で行われました。菅野村長から補助金の目録を受け取る高橋さん(右)

帰村の引越し費用の一部として一律20万円を補助する「飯館村『おかえりなさい』補助金」の申請が300件を達成。記念セレモニーが行われ、300件目の申請者、高橋あけみさん(佐須)に、置時計や生活用品のセットが、記念品として贈られました。高橋さん一家は、今年4月、大工のご主人・清さんが建て替えた自宅に、家族4人で帰還しましたが、清さんがその後間もなく他界。あけみさんは「今日のこと、お父さんのおかげのような気がします」と亡夫への感謝を話していました。

## 佐須地区の酒米から生まれた 純米酒「不死鳥の如く」



「地域の酒に育てたい」と菅野さん(左)。購入については [問 飯館村酒販店会FAX0244-43-2002](mailto:問 飯館村酒販店会FAX0244-43-2002)

菅野宗夫さん(佐須)が生産した酒米「夢の香」を使った純米酒「不死鳥の如く」が完成し、「いいたて村の道の駅までい館」や村内のコンビニエンスストアで販売されています。5月24日には、菅野さんが村役場本庁を訪れ、菅野村長に新しい日本酒の誕生を報告しました。この酒米は2年間の実証栽培を経て、昨年度から本格的に生産されています。全量全袋検査を受け、一等米の評価も得て、喜多方市の大和川酒造店で醸造されました。今回は約500本の限定販売です。

## 大勢の子ども達が再会 吉倉宿舎 自治会の同窓会



子育て世帯が数多く避難していた吉倉宿舎。同窓会には64人が参加し再会を喜び合いました

6月16日、今年3月に解散した旧吉倉宿舎飯館自治会が、村の補助制度を活用し、「飯坂ホテル聚楽」で、同窓会を開きました。子育て世帯が優先的に避難した吉倉宿舎では、自治会が中心となり、子ども達が楽しめる季節の行事などを数多く行っていました。同窓会では、結成時から自治会長を務めた鳴原良友さん(長泥)が「久しぶりにみんなと会えてうれしい。楽しい同窓会にしたい」とあいさつ。子ども達が歌やダンスで盛り上げるなど、楽しいひと時を過ごしました。

## 安全な農産物を生産しよう 「村内営農再開に伴う学習会」



土屋課長(左端)の講話を聞く参加者。具体例や注意事項などをメモしながら熱心に受講しました

5月29日、交流センター「ふれ愛館」で、「村内営農再開に伴う学習会」が開かれました。学習会では、「園芸作物(野菜類・果実類)や山菜類等の出荷・販売・譲渡の際の留意点について」「鳥獣害対策について」という2つのテーマで講話を行い、参加者との質疑応答も行いました。講師の1人、県相双農林事務所経営支援課の土屋貴史課長は、講話で出荷時の留意点を示し、「風評被害対策の観点からも、約束事を守って出荷販売をお願いします」と呼び掛けていました。